

第1回 稲沢市 まち・ひと・しごと創生 戦略会議



©稲沢市 いなっぴー

平成27年8月4日(火)午後2時～

市長公室企画政策課

1

本日の議題

- 1 まち・ひと・しごと創生について
- 2 稲沢市の現況等について
- 3 その他



2

まち・ひと・しごと 創生について



日本創成会議「増田レポート」

「若年女性人口の減少により、1799の自治体のうち896の自治体が消滅してしまう可能性がある」



増田寛也編著
「地方消滅 東京一極集中が招く人口急減」
(中公新書)

2040年に20～39歳の女性が
50%以上減少する市区町村

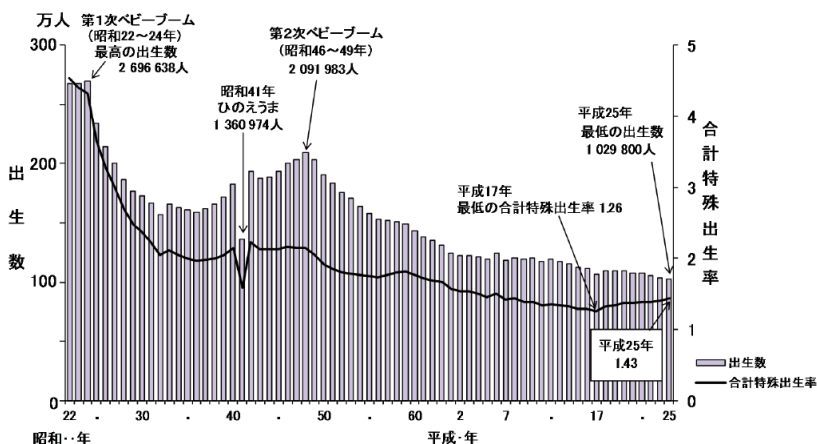


■ 人口移動が収束しない場合において、2040年に若年女性が50%以上減少し、人口が1万人以上の市区町村 (97市)
■ 人口移動が収束しない場合において、2040年に若年女性が50%以上減少し、人口が1万人未満の市区町村 (92町)

人口減少要因：若年女性の減少

合計特殊出生率が、人口置換水準(人口規模が維持される水準)の2.07を下回る状態が、1975年以降、約40年間続いている

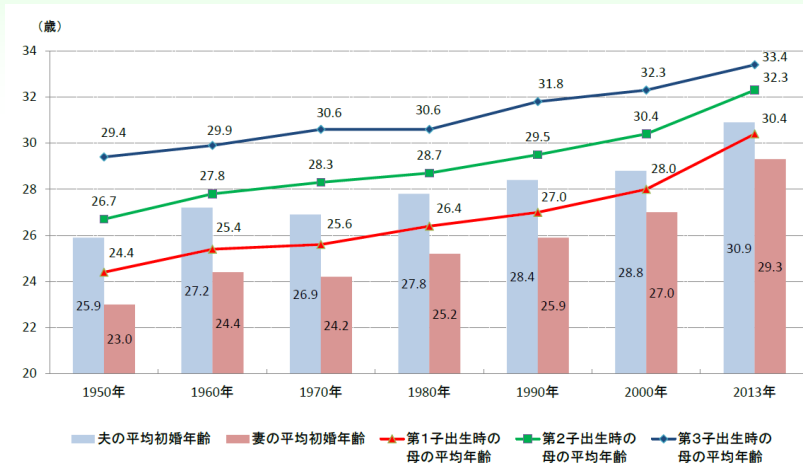
出生数及び合計特殊出生率の年次推移
(昭和22～平成25年)



5

人口減少要因：若年女性の減少

女性の平均初婚年齢、平均出生時年齢が上昇。
結婚及び1人目の出産が遅く、2～3人目の出産に繋がらない。

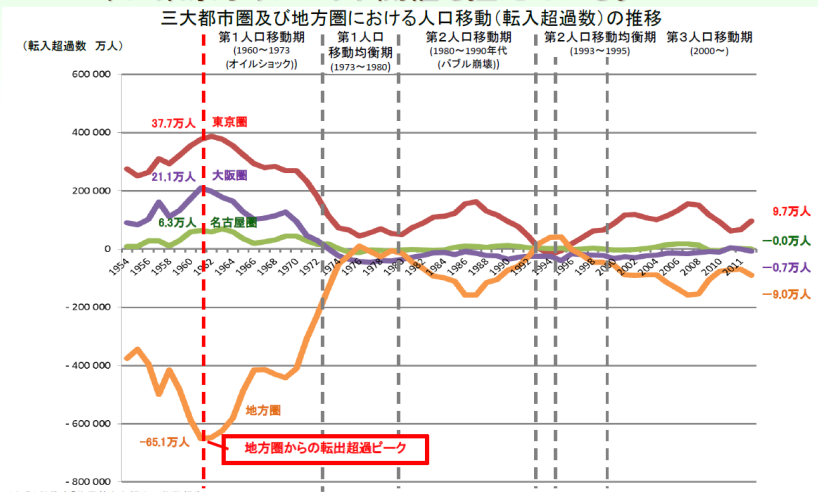


資料出所：厚生労働省大臣官房統計情報部「人口動態統計」

6

人口減少要因：東京一極集中

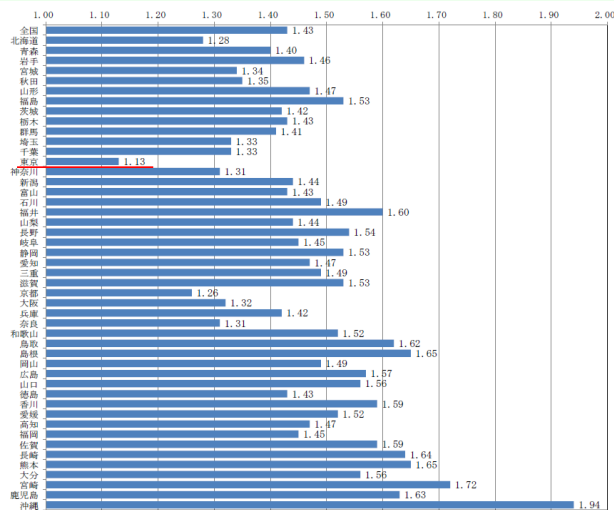
地方から東京圏への人口流出は収束せず。
2020年に東京オリンピック開催も控えている。



7

人口減少要因：東京一極集中

東京圏、特に東京都の出生率は極めて低い。
若者を吸い寄せ人口を再生産しないブラックホール。



資料出所: 厚生労働省「平成25年人口動態統計月報年計」

8

国の動き

- まち・ひと・しごと創生本部の設置 [H26.9]
- まち・ひと・しごと創生法の制定 [H26.11]
- まち・ひと・しごと創生長期ビジョン・総合戦略の策定 [H26.12]
- 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金の創設(補正予算) [H27.2]

9

「まち・ひと・しごと創生」とは

●「まち」

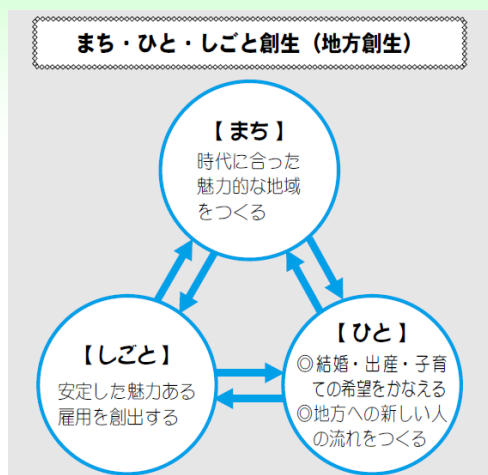
国民一人一人が夢や希望を持ち、潤いのある豊かな生活を安心して営むことができる地域社会の形成

●「ひと」

地域社会を担う個性豊かで多様な人材の確保

●「しごと」

地域における魅力ある多様な就業の機会の創出



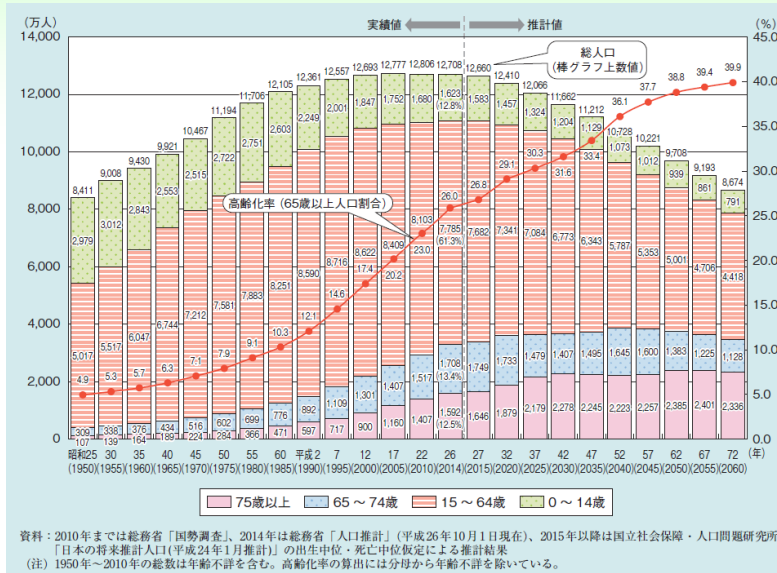
「まち・ひと・しごと創生」とはこれら三つを一体的に推進すること

※「まち・ひと・しごと創生法」(平成26年法律第136号)第1条

10

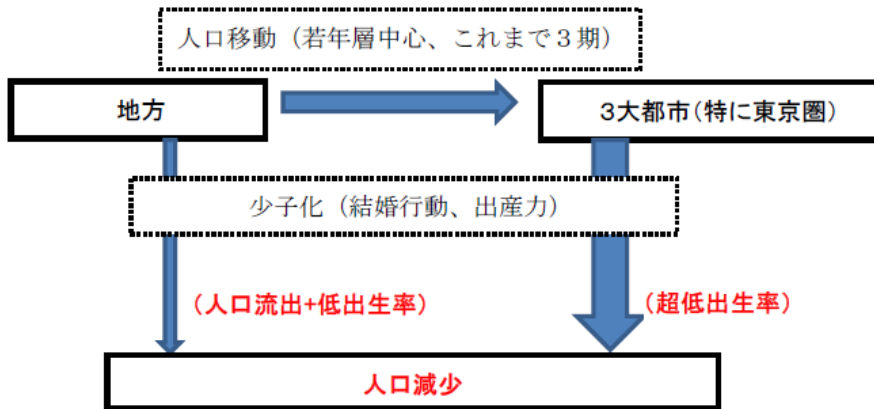
国の将来推計人口と人口構成

昔と同じ人口規模になっても、中身は全く異なる。



11

人口減少の流れと国の基本目標



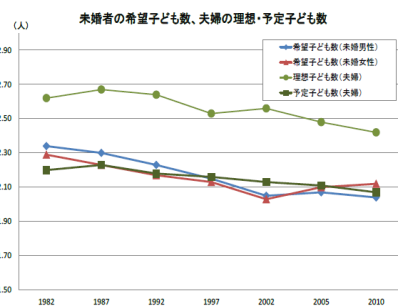
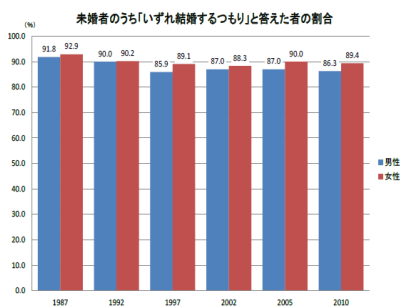
基本目標1: 国民の『希望出生率』を実現する。

基本目標2: 地方から大都市へ若者が流出する『人の流れ』を
変える。

12

結婚の意思と理想の子ども数

未婚者の結婚意思は9割程度で推移。
理想子ども数は2人以上。



	1987	1992	1997	2002	2005	2010
男性	91.8	90.0	85.9	87.0	87.0	86.3
女性	92.9	90.2	89.1	88.3	90.0	89.4
不詳	4.5	5.1	7.8	7.7	5.9	4.3
一生結婚するつもりはない	3.7	4.6	6.0	6.7	4.3	3.8

	1982	1987	1992	1997	2002	2005	2010
希望子ども数(未婚男性)	2.34	2.30	2.23	2.15	2.05	2.07	2.04
希望子ども数(未婚女性)	2.29	2.23	2.17	2.13	2.03	2.10	2.12
理想子ども数(夫婦)	2.62	2.67	2.64	2.53	2.56	2.48	2.42
予定子ども数(夫婦)	2.20	2.23	2.18	2.16	2.13	2.11	2.07

資料出所: 国立社会保障・人口問題研究所「出生動向基本調査」

※ 年次は調査年。未婚者については18～34歳の者を対象に集計したもの。夫婦の理想・予定子ども数は妻が50歳未満の夫婦に係る調査で回答者は妻。

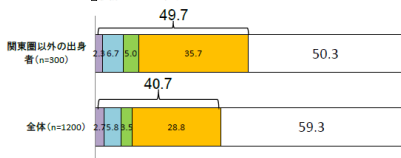
1/13

地方への移住に関する意向

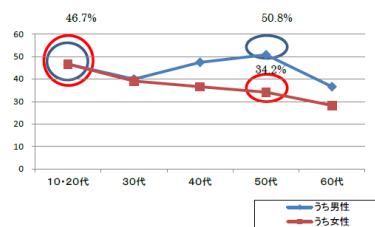
東京在住者の4割が地方への移住を予定又は検討を考える。
移住の不安としては、「雇用」や「日常生活・交通の不便」。

1. 東京在住者の移住希望調査結果 (2014年8月)

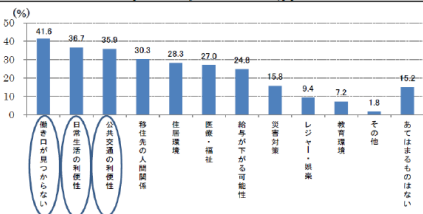
- 今後1年以内に移住する予定・検討したいと思っている
- 今後5年を境に移住する予定・検討したいと思っている
- 今後10年を境に移住する予定・検討したいと思っている
- 具体的な時期は決まっていないが、検討したいと思っている
- 検討したいと思わない



2. 移住希望は、男性は10・20代と50代で高く、女性は10・20代は高いが、年齢が高くなると減少。



3. 移住の不安は「雇用」や「日常生活・交通の不便」が高い。

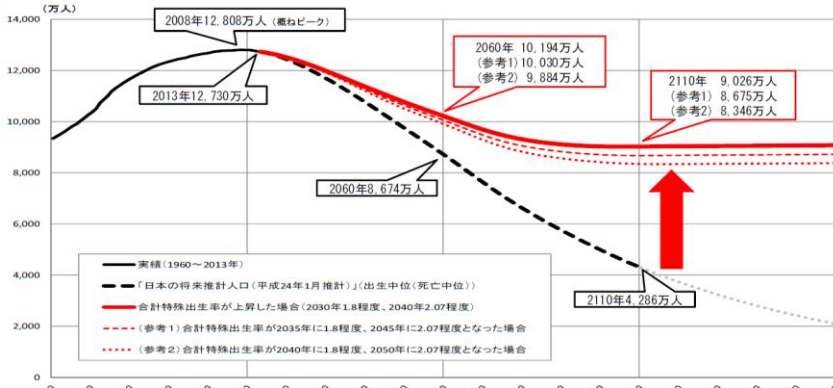


(資料出所) 内閣官庁「東京在住者の今後の移住に関する意向調査」

1/13

国が目指す将来の方向

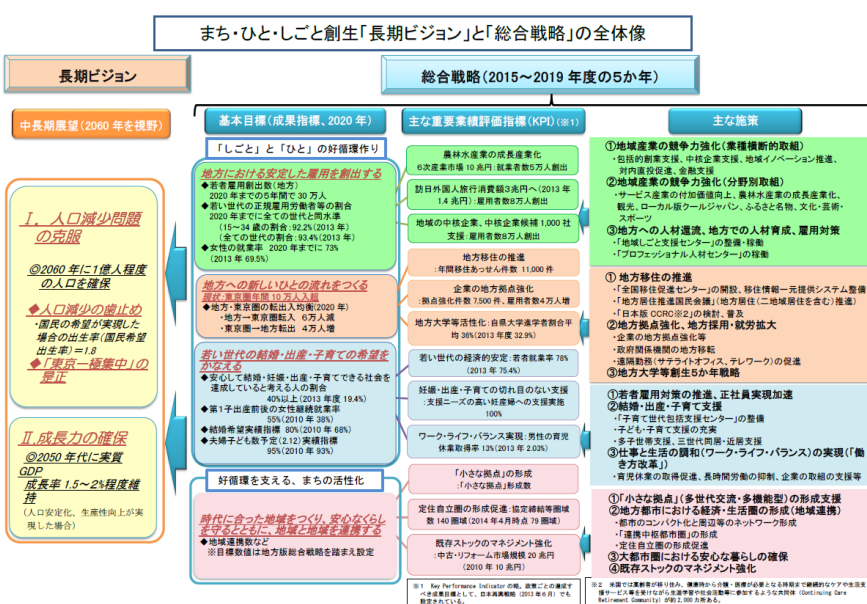
仮に、合計特殊出生率が2030年に1.8程度、2040年に2.07程度（2020年には1.6程度）まで上昇すると、2060年の人口は約1億200万人となり、長期的には9,000万人程度で概ね安定的に推移するものと推計される。



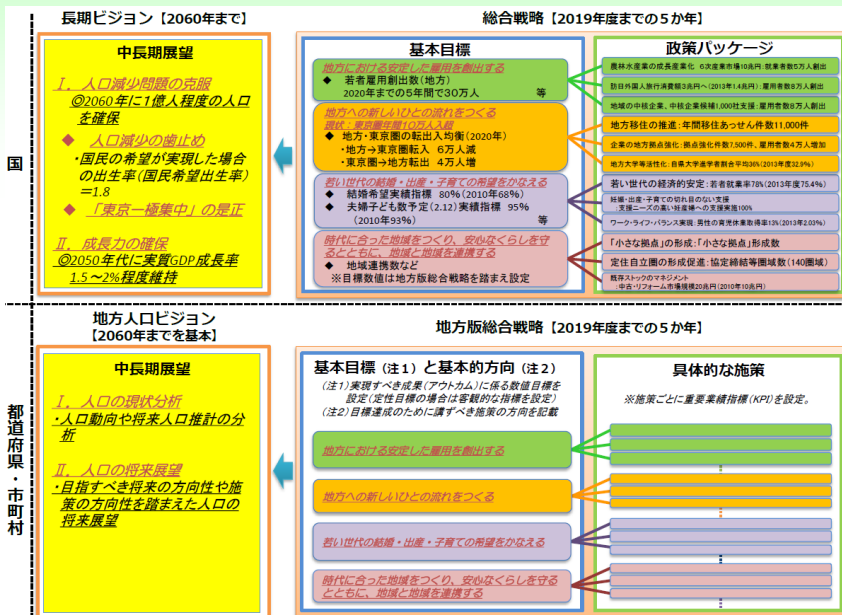
(注1) 実績は、総務省統計局「国勢調査」等による(各年10月1日現在の人口)。国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」は出生中位(死亡中位)の仮定による。2110～2160年の点線は2110年までの仮定をもとに、まち・ひと・しごと創生本部事務局において機械的に延長したものである。
 (注2) 「合計特殊出生率が上昇した場合」は、経済財政諮問会議専門調査会「選択する未来」委員会における人口の将来推計を参考にしながら、合計特殊出生率が2030年に1.8程度、2040年に2.07程度(2020年には1.6程度)となった場合について、まち・ひと・しごと創生本部事務局において推計を行ったものである。

15

国の長期ビジョン・総合戦略



地方版人口ビジョン・総合戦略



17

稲沢市の 現況等について



18

歴史と緑のまち

- ・平成17年4月1日に旧稲沢市、旧祖父江町、旧平和町が合併し、新しい「**稲沢市**」が誕生。
- ・濃尾平野の中央に位置し、かつては尾張国の国府が置かれていた。
- ・「**自然の恵みと心の豊かさ 人が輝く 文化創造都市**」をスローガンに掲げる。

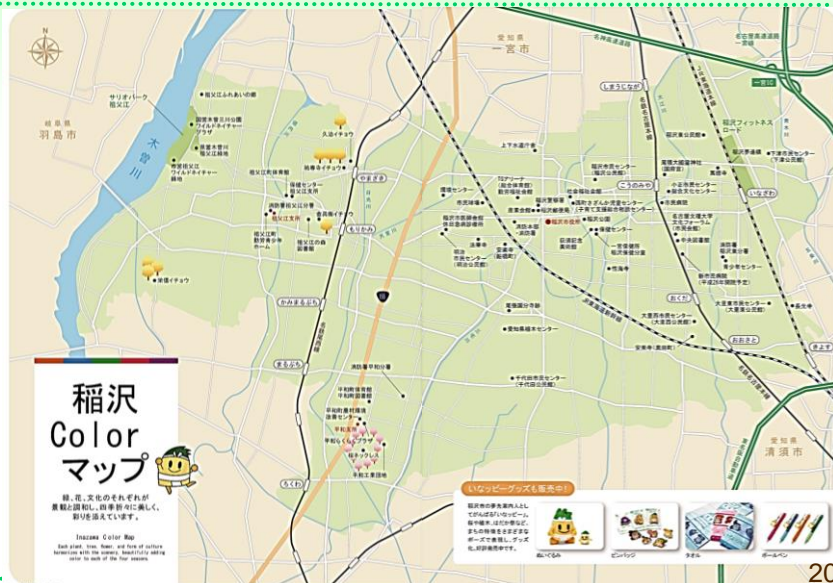


人口 138,230人
世帯数 52,578世帯
面積 79.35Km²
(平成27年4月1日現在)



市長 大野紀明

市域マップ



観光と特産品



国府宮はだか祭



市の木 クロマツ
市の花 キク



桜ネックレス



サリオパーク祖父江



いなっピー
①稲沢市 いなっピー



植木・苗木

ぎんなん



最近の稲沢市トピックス



新市民病院開院
(H26.11)



尾張国分寺跡 史跡指定
(H24.10 : 第一次)



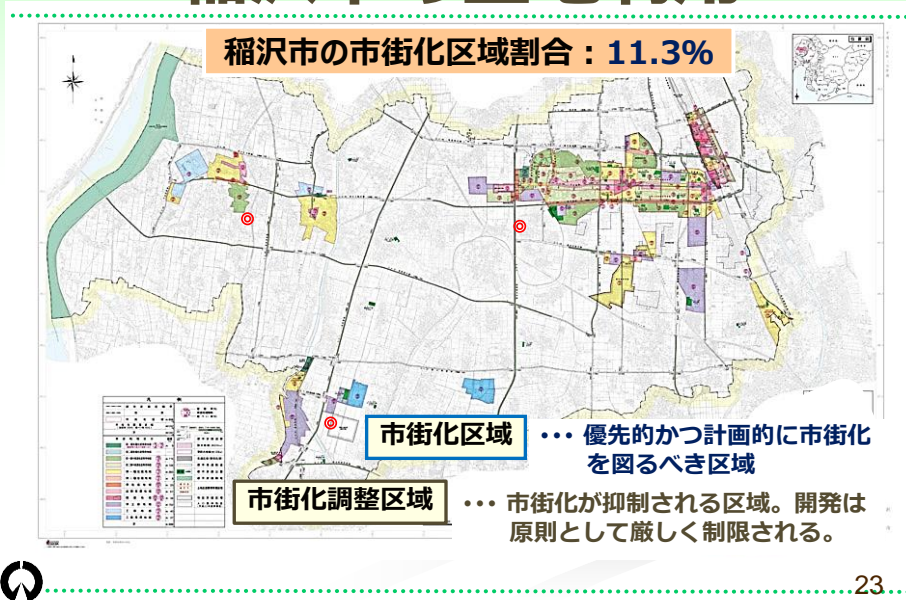
夢達橋とJR稲沢駅周辺開発



平和工業団地開発



稲沢市の土地利用



23

人口ビジョンの構成（案）

- ・市人口の現状把握及び分析、将来展望を行うもの
- ・対象期間は2060年まで

1. 稲沢市の現状

- ①人口の減少
 - ★ (1)人口の推移と将来推計人口
 - ★ (2)若年女性人口(20～39歳)の推移と推計
 - ★ (3)世帯数及び世帯人員の推移
- ②少子高齢化の進展
 - ★ (1)年齢3区分別人口の推移
 - ★ (2)年齢3区分別人口比率の推移
 - ☆ (3)児童生徒数の推移
- ③結婚
 - ★ (1)男性・女性の生涯未婚率
 - ★ (2)男性・女性の年代別有配偶率
 - ☆ (3)国県との比較
 - ☆ (4)県内他自治体との比較
 - ★ (5)平均初婚年齢の推移
 - ★ (6)年齢別・配偶の有無別女性の就業率
 - ☆ (7)本市の若者の結婚に関する意識

24

人口ビジョンの構成（案）

- ④自然動態
 - ★ (1)出生・死亡の推移
 - ★ (2)合計特殊出生率の推移
 - ★ (3)合計特殊出生率の県内他自治体との比較
 - ☆ (4)本市の若者の出産に関する意識
- ⑤社会動態
 - ★ (1)転入・転出の推移
 - ★ (2)男女別・年齢別の社会増減
 - ★ (3)転入元・転出先の内訳
 - ☆ (4)9地区の転入・転出・転居の内訳
 - ☆ (5)人口移動の要因(産業別)
 - ☆ (6)本市の転出入の意向に関する意識
- ⑥通勤・通学
 - ★ (1)通勤・通学者の流出入状況
 - ★ (2)昼夜間人口の推移
- ⑦産業別就業人口の変化
 - ★ (1)産業別就業人口推移(男女別・年齢別)
 - ★ (2)産業別就業人口の割合(男女別・年齢別)

25

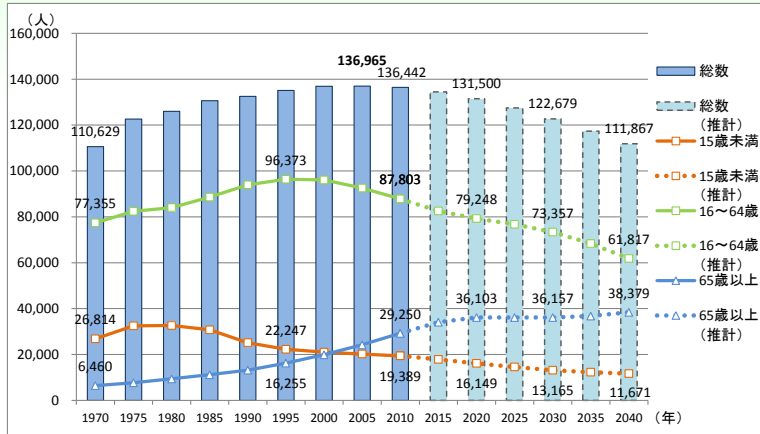
人口ビジョンの構成（案）

- ⑧住宅
 - ★ (1)住宅着工件数の推移
 - ★ (2)貸家着工件数の近隣自治体との比較
 - ★ (3)地価の推移及び他自治体との比較
 - ★ (4)借家平均家賃の推移及び他自治体との比較
 - ★ (5)住宅所有形態の推移及び他自治体との比較
 - ★ (6)空き家率の推移及び他自治体との比較
- 2 人口の変化が稲沢市の将来に与える影響
 - ☆①財政状況への影響
 - ☆②公共施設の維持管理・更新等への影響
- 3 人口の将来展望
 - ①目指すべき将来の方向
 - ☆ (1)現状と課題の整理・まとめ
 - ☆ (2)基本姿勢
 - ☆ (3)目指すべき将来の方向
 - ②人口の将来展望
 - (1)市の人口の推移と長期的な見通し
 - ☆ ・目指すべき合計特殊出生率、純移動率は
 - ☆ ・施策効果を考慮した独自仮定値による推計
 - ☆ ・2060年の目標人口●●●●●人

26

1 ①(1)人口の推移と将来推計人口

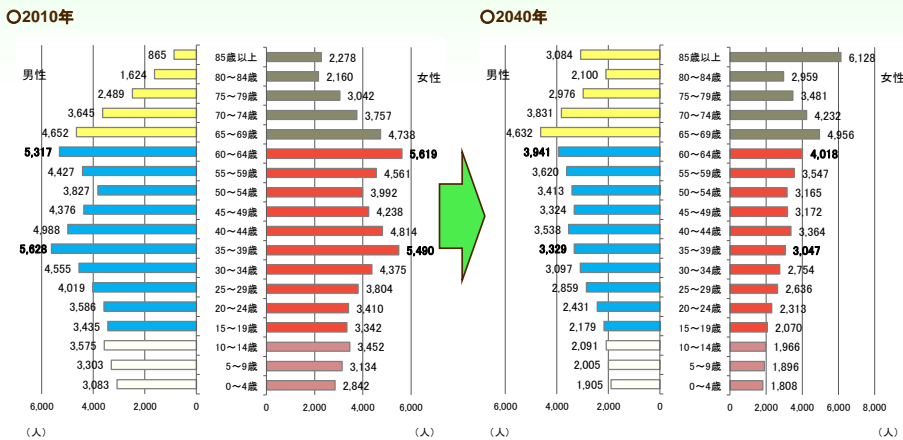
2005年をピークに本市の人口は急激に減少。
2040年には3人に1人が高齢者に。



出所:2010年までは「国勢調査」、2015年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」

1 ①(1)人口の推移と将来推計人口

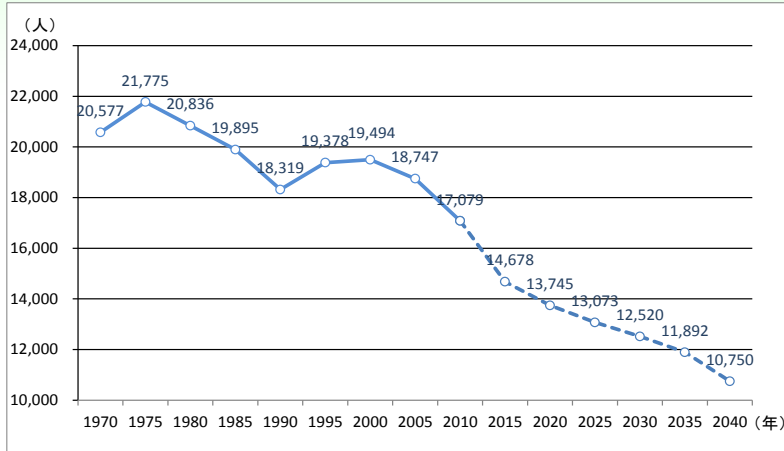
団塊の世代と団塊ジュニアの二つのふくらみのある人口ピラミッド。ひょうたん型から逆富士山型に。



出所:2010年は「国勢調査」、2040年は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」

1 ①(2)若年女性人口の推移と推計

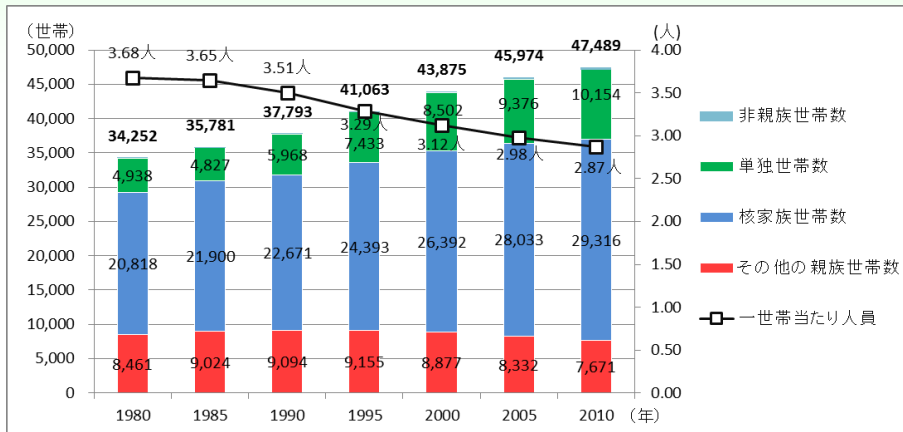
「増田レポート」によると、本市の20～39歳の女性人口の減少率は県内でも高い数値であり、38市中下から3番目。



出所:2010年までは「国勢調査」、2015年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」

1 ①(3)一般世帯数と世帯人員の推移

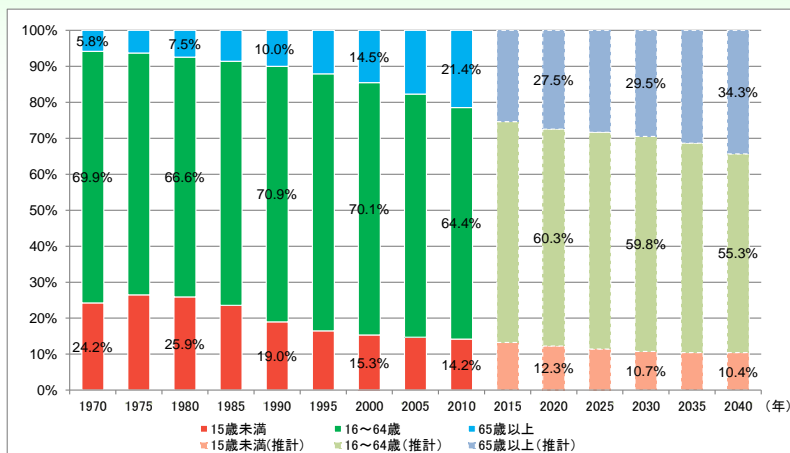
核家族と単身世帯数が増加。
三世帯同居(その他の親族世帯数)は減少。



出所:「国勢調査」

1 ②(2)年齢3区分別人口比率の推移

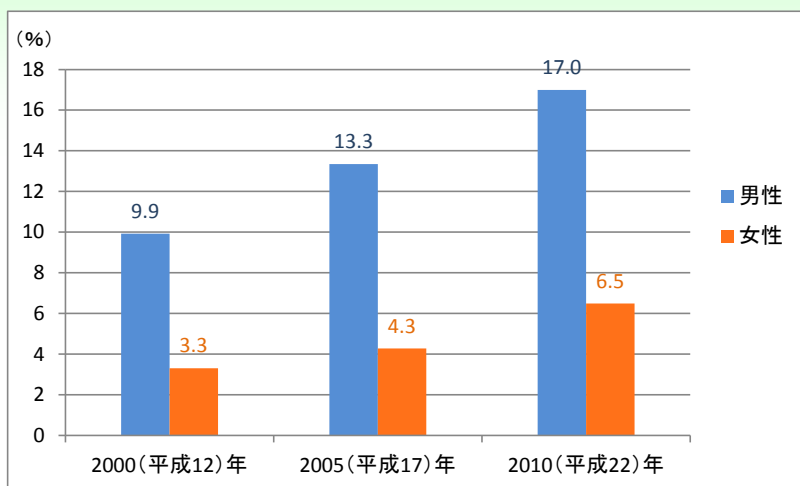
高齢者が増加。3人に1人以上が高齢者に。
現役世代が高齢者を支える形が騎馬戦から肩車に。



出所:2010年までは「国勢調査」、2015年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」

1 ③(1)男性・女性の生涯未婚率

男性の6人に1人弱が未婚。非婚化の傾向が顕著。

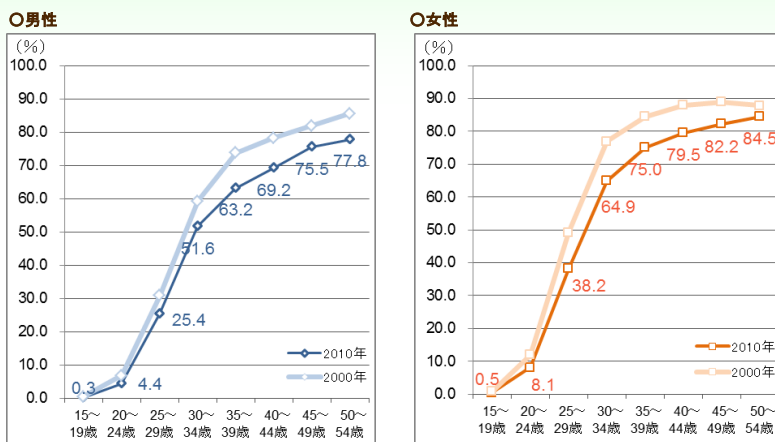


出所:「国勢調査」

※生涯未婚率は50歳時の未婚率（その時点で一度も結婚したことがない人の割合）であり、45～49歳と50～54歳の未婚率の単純平均により算出。

1 ③(2)男性・女性の年代別有配偶率

時代の推移により有配偶率は低下。
非婚化・晩婚化の傾向が顕著。

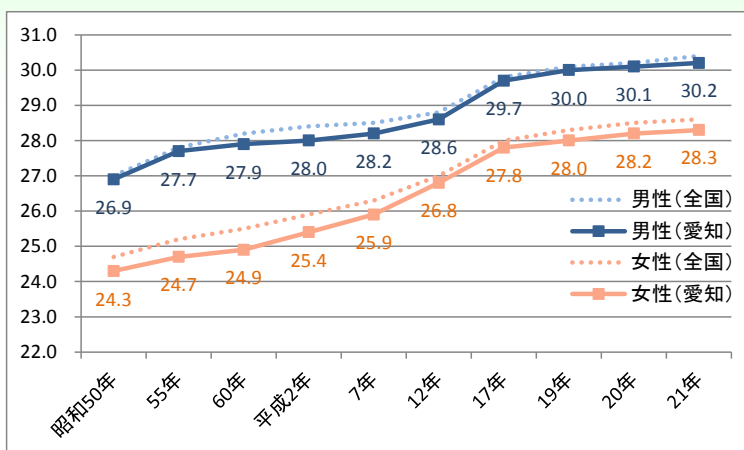


出所:「国勢調査」

33

1 ③(5)平均初婚年齢の推移

愛知県のデータ。時代の推移に伴い晩婚化の傾向が顕著。

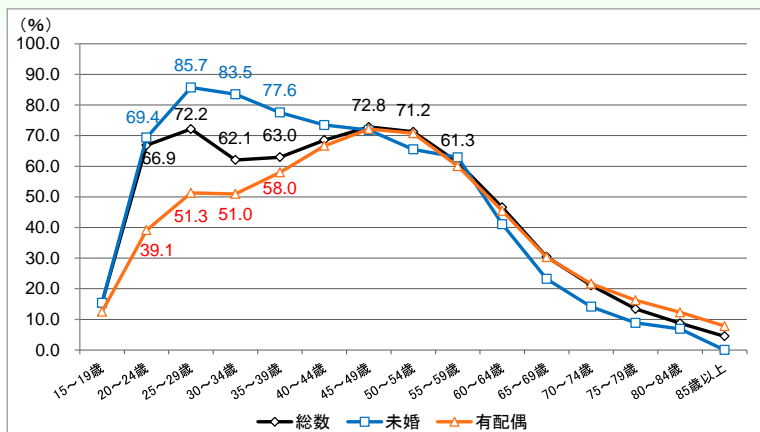


出所:「国勢調査」

34

1 ③(6)年齢別女性の就業率

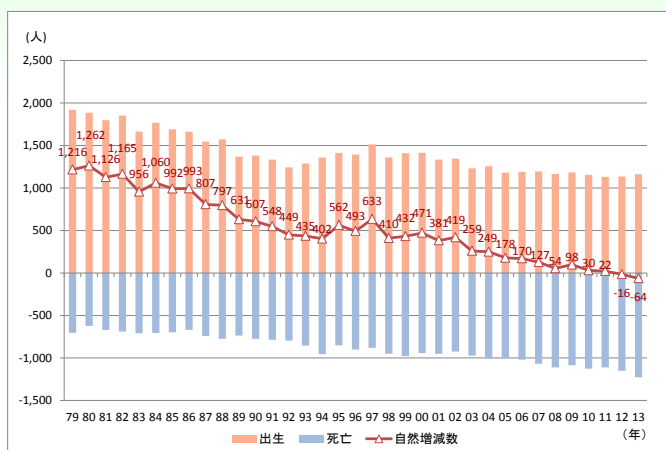
M字曲線(結婚・出産・子育てに伴う離職による)を描いている。
女性が働き続けられる環境の整備が急務。



出所:「国勢調査」

1 ④(1)出生・死亡の推移

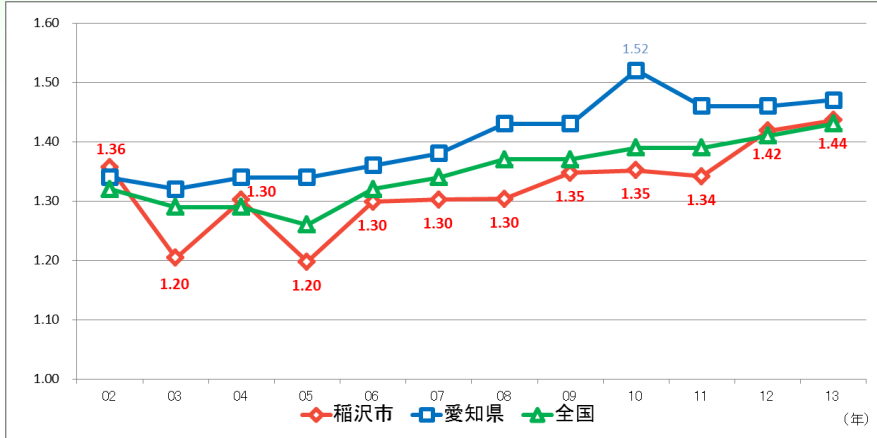
2012年を境に自然減の段階に突入。



出所:「住民基本台帳」

1 ④(2)合計特殊出生率の推移

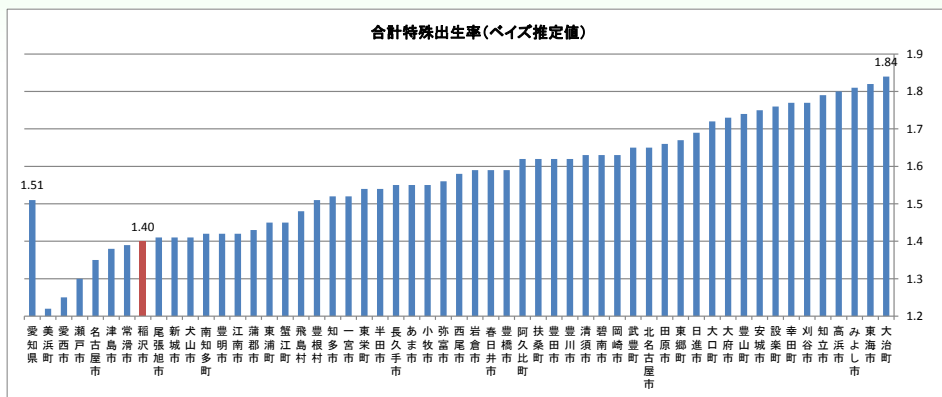
過去は国県平均を下回るが復調傾向。
依然として人口置換基準2.07に遠く、また、県平均を下回る。



出所:「人口動態調査」
※稲沢市の合計特殊出生率については、愛知県人口動向調査を基に算出

1 ④(3)合計特殊出生率の県内比較

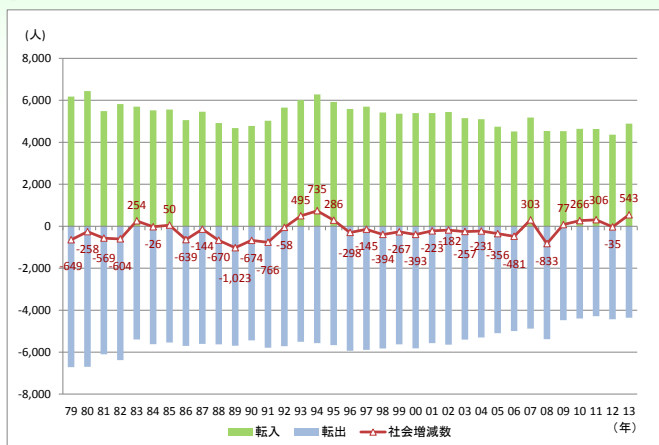
2010～2014年のデータ。県内でも最低辺の合計特殊出生率。
出産を阻害している要因は何か。



出所:「平成20～24年人口動態保健所・市区町村別統計」

1 ⑤(1)転入・転出の推移

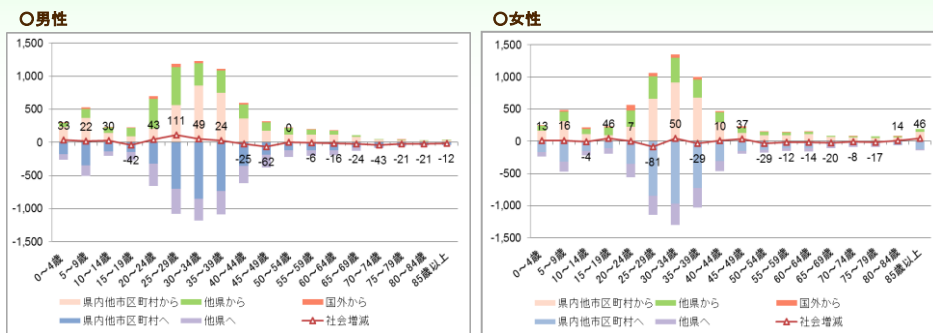
ここ数年はJR稲沢駅周辺の開発により、市全体での社会増を達成。



出所:「住民基本台帳」

1 ⑤(2)男女別・年齢別の社会増減

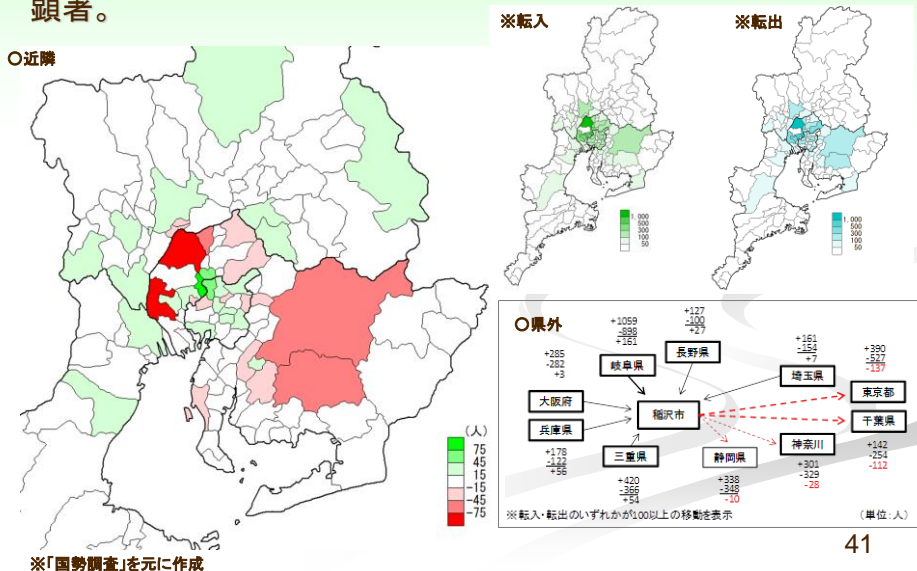
男性は大学進学時の転出、女性は就職時・結婚時の転出傾向が見られる。



出所:「国勢調査」

1 ⑤(3)転入元・転出先の内訳

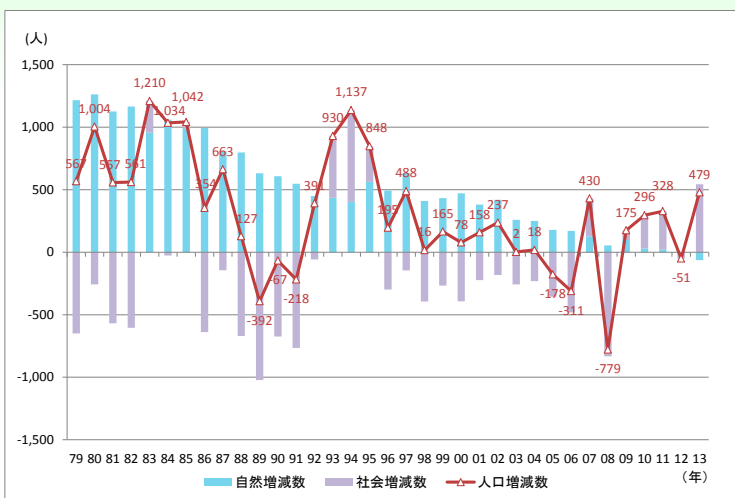
製造業が盛んな西三河のほか、近隣自治体への転出傾向が顕著。



※「国勢調査」を元に作成

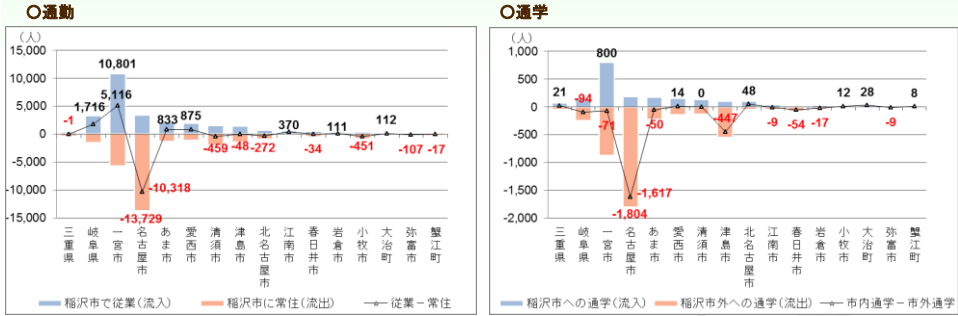
(参考) 自然増減と社会増減

本市は自然増減と社会増減のどちらの影響度が高いのか。



1 ⑥(1)通勤・通学者の流出入状況

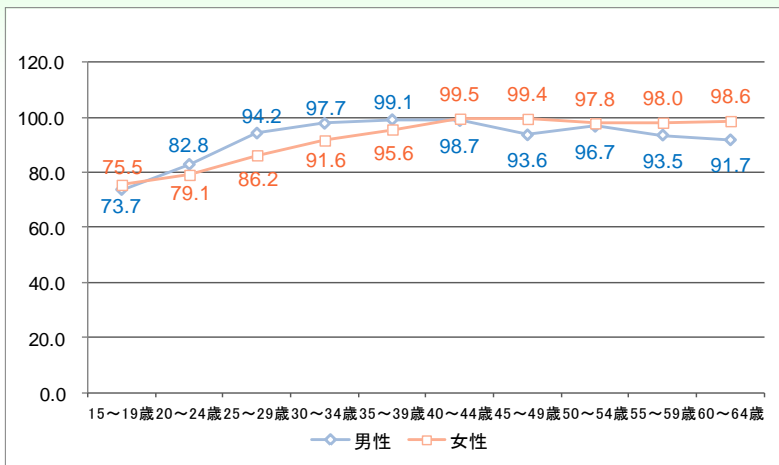
名古屋市のベッドタウンとして定着。
周辺自治体からの通勤流入も。



出所:「国勢調査」

1 ⑥(2)昼夜間人口の推移

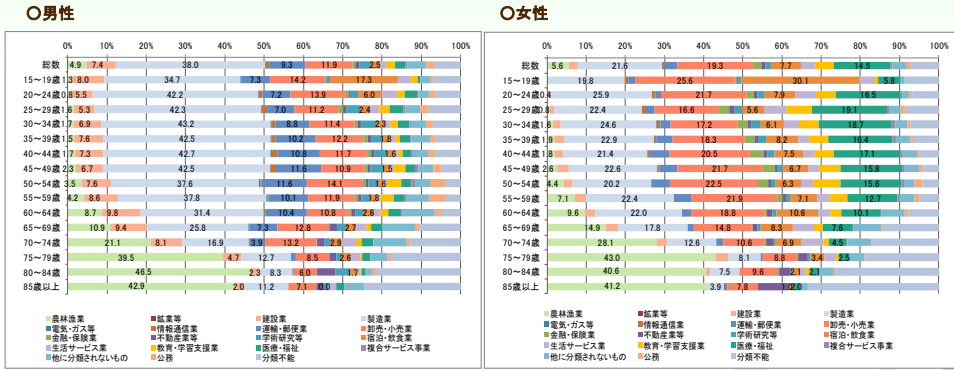
概ね100に近い水準を示すが、若い女性の数値が低い。
ニーズに合った雇用が十分提供されていない可能性がある。



出所:「国勢調査」

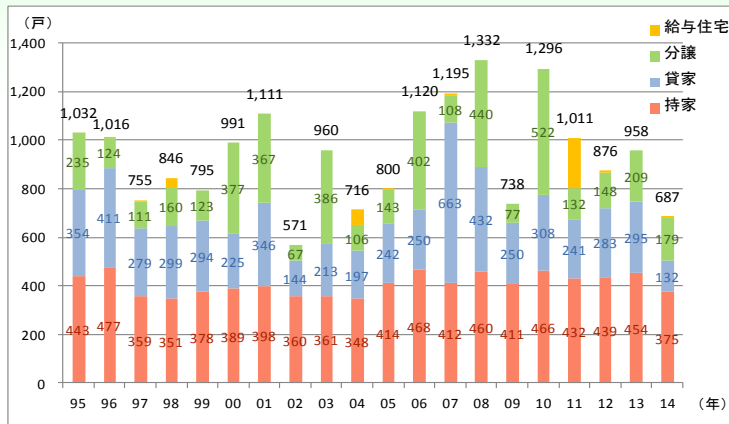
1 ⑦(2)年齢別・産業別就業人口

男性は製造業、女性は卸売・小売業、医療・福祉業への就業率が高い。



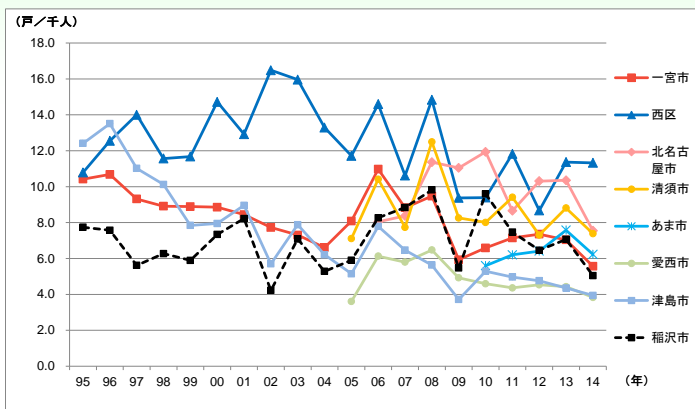
1 ⑧(1)住宅着工件数の推移

持ち家の着工は一定数あるものの、分譲や貸家の提供が少ない傾向にある。



1 ⑧(2)住宅着工件数の近隣比較

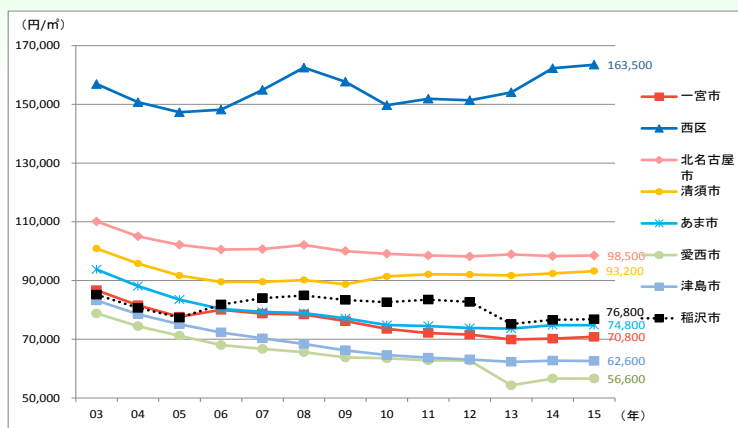
1,000人当たりの新設住宅着工数(総数)の推移。
JR稲沢駅前の着工沈静化により、今後は減少傾向か。



出所:「建築着工統計調査」

1 ⑧(3)地価の推移及び近隣比較

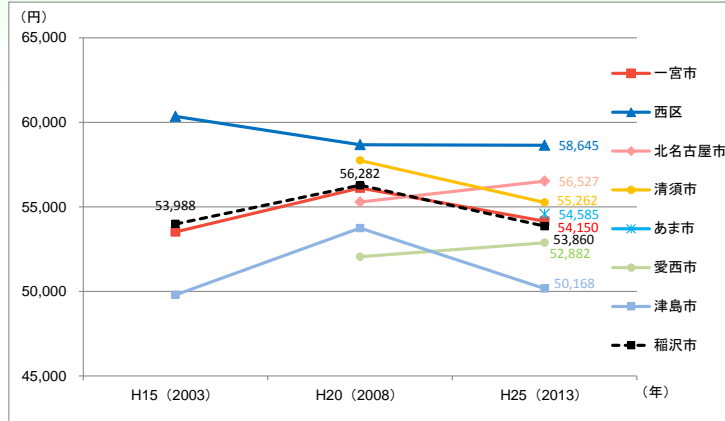
地価公示価格(住宅地平均価格)の推移。市街化調整区域が
平均地価を押し下げており、市街地はさらに高価と考えられる。



出所:「住宅土地統計調査」

1 ⑧(4)家賃の推移及び近隣比較

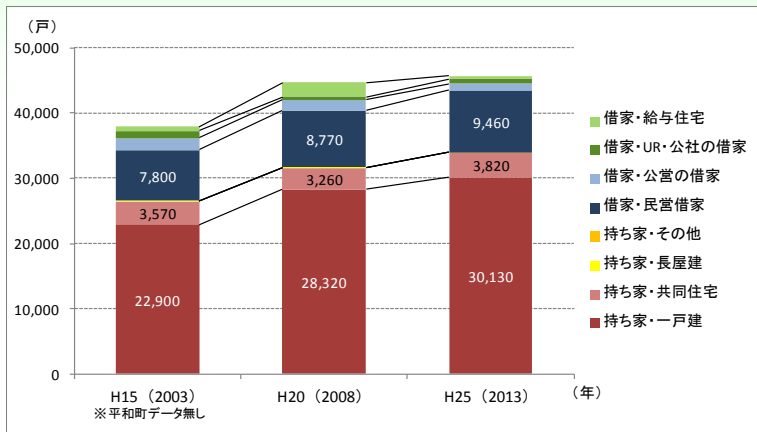
借家平均家賃の推移。中間的な値となっている。



出所:「住宅土地統計調査」

1 ⑧(5)住宅所有形態の推移

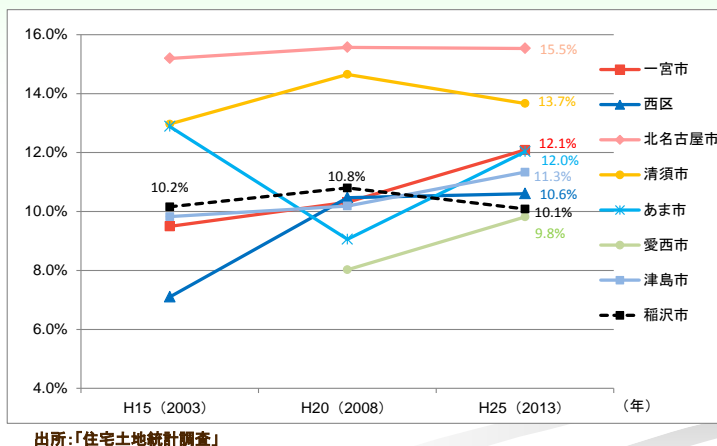
全体の7割近くを持ち家が占める。
結婚・子育て世代のニーズに合う質・量の確認が必要。



出所:「住宅土地統計調査」

1 ⑧(6)空き家率の推移

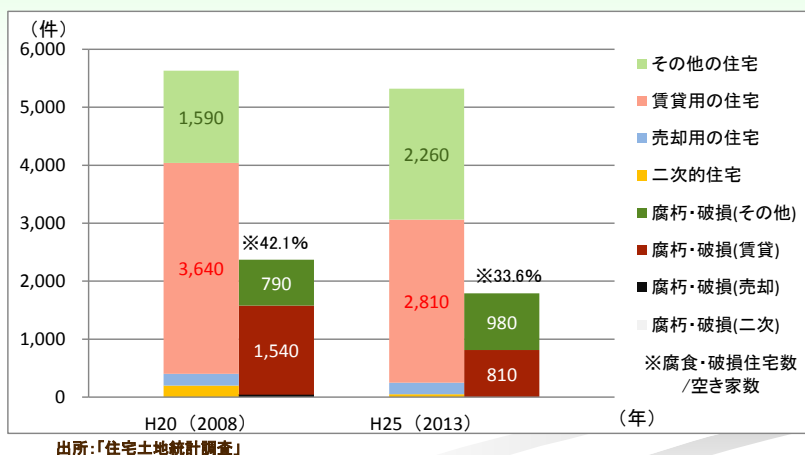
周辺市に比べて低い水準で推移。



51

(参考)空き家数と腐朽・破損数

空き家の腐朽・破損割合は33.6%。県内では低い水準だが、将来的に放置可能性の高い「その他の住宅」で空家数が増加。



52

人口の将来 展望に向けて



少子高齢化の進行と人口の減少

- ・日本の総人口は平成20年を概ねピークに減少に転じています。国立社会保障・人口問題研究所がまとめた推計結果によると、稲沢市の将来人口も国と同様の傾向を示しており、人口減少がもたらす様々な影響への備えが急がれます。
- ・平成22年から平成52年まで（30年間）の市の将来人口推計を見ると、**総人口は13万6千人から11万1千人に減少**する一方、**高齢者人口は2万9千人から3万8千人に増加**します。**生産年齢人口の減少によって税収が下がる一方、高齢者人口の増加によって医療や介護などの費用は増えていきます。**
- ・少子高齢化の進行は、医療、子育て、教育、防災、環境、福祉など、**市民の暮らしに欠かせないサービスにまで影響を及ぼすと懸念**されます。



市の財政状況

- ・歳出面では、高齢化の進行から福祉・医療・介護などの社会保障関係費が増加の一途にあります。
- ・歳入面では、地方交付税の合併算定替の優遇特例措置が平成28年度から5年間かけて段階的に縮小し終了するため、平成33年度には約20億円の減少になります。
- ・老朽化した公共施設の建替え問題も抱えています。
- ・市税収入は個人所得の回復等により5年連続の増収を見込んでいますが、平成20年度決算と比較すると約17億円が減少しており、リーマンショックの影響から十分に回復できていないのが現状です。



【増収の主な内訳】

個人市民税 1億6千万円、固定資産税 9千万円



©稲沢市55いなッピー

第1回 稲沢市まち・ひと・しごと創生 戦略会議



©稲沢市 いなッピー

平成27年8月4日（火）
市長公室企画政策課



©稲沢市56いなッピー